

オーディオ実験室収載

STAGE+を楽しむ(285)(HP 収載)

—グラーフェネック音楽祭—

1. 始めに

前報(284)に引き続き、STAGE+のグラーフェネック音楽祭のラベック姉妹の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、STAGE+のグラーフェネック音楽祭のラベック姉妹の演奏を選びました。

ラベック姉妹がファビアン・ガベルとプーランクの協奏曲で共演

再配信 8月 15日 9:00

グラーフェネック音楽祭

グラーフェネック音楽祭の幕開けを盛大に彩る豪華なコンサートをお届けします。プログラムの前半は、ファビアン・ガベルが指揮するトーンキュンストラー管弦楽団との共演でラベック姉妹がプーランクの2台のピアノのための協奏曲を披露。半世紀以上にわたってデュオを組んできた彼女たちにとって、この作品が十八番であることは言うまでもありません。続く《セミラミス》より前奏曲と舞曲は、ラヴェル生誕150年を記念して2025年5月にニューヨークで初演された未発表作品で、この演奏はヨーロッパ初演となります。メインとなる《アルプス交響曲》は、ある1日の山登りを鮮やかに活写し、人間と自然との底知れぬ関係を探求するシュトラウス円熟期の傑作です。野外ステージ「ヴォルケントゥルム」で繰り広げられる圧倒的なスペクタクルにご期待ください。

ソリスト:

マリエル・ラベック (ピアノ)、カティア・ラベック (ピアノ)

演奏:

トーンキュンストラー管弦楽団

指揮:

ファビアン・ガベル

曲目:

フランシス・プーランク 2台のピアノのための協奏曲ニ短調

マリエル・ラベック(ピアノ)、カティア・ラベック(ピアノ)

モーリス・ラヴェル 《セミラミス》より前奏曲と舞曲

リヒャルト・シュトラウス 《アルプス交響曲》op. 64



3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナツも使用しています。さらに、スピーカーアキュライザーのマイナス端子への Crystal EpY-G の接続を継続し、PC の仮想アース Crystal E Jtune に Crystal E を連結しています。また、ルーター→スイッチングハブ間の LAN 接続に OPT ISO BOX を適用し、OPT ISO BOX の AC アダプターの DC ケーブルに FX Audio の Petit Susie Solid State を介在させてスイッチング電源からのノイズの低減を図っています。

さらに今回から、スイッチングハブ→PC 間 LAN 接続には OPT ISO BOX に代って適用した LAN iPurifier Pro の電源を iPower に交換しています。

今回は、PC の受信から GPS-777 クロック入力の SWD-DA20 に送り出しています。

8月 15 日 9:00 からの再配信を試聴しました。

グラーフェネック音楽祭は、オーストリアのグラーフェネック城の野外音楽堂で開催されます。

プーランクの 2 台のピアノのための協奏曲は、初めて聴くもので、マリエル・ラベックと カティア・ラベックの姉妹が 2 台のピアノを演奏します。鋭角的な打鍵と優しく愛らしい旋律が展開されます。野外音楽堂ですので、オーケストラの音は少し散漫ですが、ピアノの音は鮮明です。アンコール曲は、小粋な小品でした。

後半は、暗くなつてからの演奏となりました。

ラヴェルの《セミラミス》の前奏曲と舞曲は、最近初演された珍しい曲です。

シュトラウスの《アルプス交響曲》は、お馴染みの曲で、夜明けから夜の帳が下りるまでのアルプスの一日の情景を描いた描写音楽です。ステージを埋め尽くすガベル指揮大編成のトーンキュンストラー管弦楽団のダイナミックレンジの大きい、迫力ある演奏ですが、野外ステージのため、ホールトーンはなく、低音の量感は不足気味です。



4.まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナツや Crystal EpY-G や PC の仮想アース Crystal E Jtune に Crystal E を連結し、LAN 接続に OPT ISO BOX と電源交換した LAN iPurifier Pro を適用した結果、野外ステージでの演奏で、プーランク、ラヴェル、リヒヤルト・シュトラウスのそれぞれの曲をくつろいだ雰囲気で聴くことができました。

以上